



平成 26 年 7 月開院予定 大崎市民病院新本院

6 月 22 日、南側上空より撮影した市民病院新本院の建設現場

新しい大崎市民病院本院は、平成 26 年 7 月に開院する予定です。今回、平成 24 年より古川穂波地区において進められている建設工事について、現在の状況をお知らせします。

市民病院病院建設課病院建設係 ☎ 23-3311

現在、大崎市民病院新本院の建設現場では、「本館」と「エネルギーセンター」の部分の工事が進められています。

上記の写真は、南側の上空より新本院建設現場を撮影したものです。写真の中央に写っているのが、本館（低層部一〜三階）の部分になります。その本館の東側に隣接して建設されている建物がエネルギーセンターになります。

本館の低層部は、主に「救急や外来・手術」などの機能を担います。

エネルギーセンターは、本館にエネルギー（電気・ガス・水・蒸気など）を効率良く供給する施設です。

また、一般外来など来院者が利用する入り口は、写真の西側に写っている市道より入るように計画されています。自家用車での来院者は、本館の南側に整備される駐車場を利用することになります。

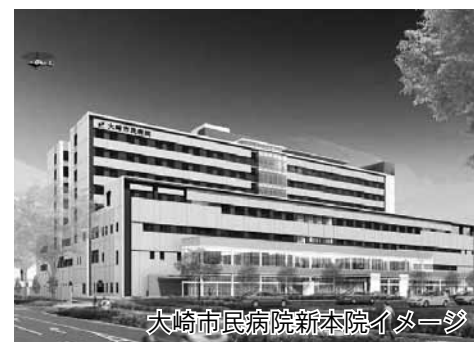
工事の状況として、本館は基礎工事から三階の主要な構造部分を形成する工事までが完了しました。

また、現在行われている四・五階部分の建築工事と並行して配管設備工事も行われています。

エネルギーセンターも同様に基礎工事から二階の主要な構造部分を形成する工事までが完了し、現在は三階部分の建築工事と並行して配管設備工事が行われています。

今後は、本館の高層部五〜九階の工事に差し掛かり、その高層部は主に「一般病棟」として利用されることとなります。

建設現場には、連日、四百人以上の人々が携わり、平成二十六年七月の開院に向けて工事を進めているところです。



大崎市民病院新本院イメージ

熱中症のことを知って 予防しましょう

気象庁が発表している予報での今夏の平均気温は、全国的に平年並みまたは高いとされています。夏の暑苦しい環境下では、熱中症に気を付けましょう。

健康推進課保健・地域医療担当 ☎ 23-5311
または各総合支所市民福祉課
農林振興課農業経営係 ☎ 23-7090

■熱中症を予防するには

- ・こまめに水分や塩分を補給しましょう
- ・扇風機やエアコンを使って温度調整をしましょう
- ・通気性の良い、吸湿・速乾衣服を着用しましょう
- ・外出時には日傘や帽子を着用しましょう

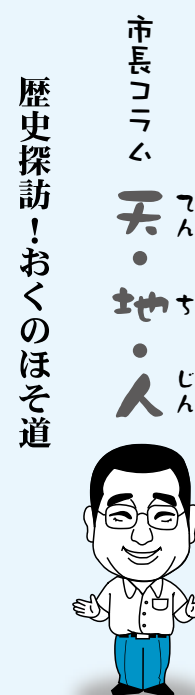
■熱中症が疑われる人をみかけたら

- ・涼しい場所へ避難させましょう
- ・衣服を脱がせ、身体を冷やしましょう
- ・水分や塩分を補給させましょう

農作業中は特に気を付けましょう

夏場の炎天下での作業は、熱中症の発症する確率がかなり高くなります。次の事項に気を付けましょう。

- ・休憩をこまめにとりましょう
- ・屋内では風通しを良くし室内の換気に努めましょう



市長コラム 天・地・人
歴史探訪！おくのほそ道

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」で始まる松尾芭蕉の紀行文「おくのほそ道」は、日本文学史上最高傑作とも言われ、広く世界に紹介されております。

三百二十四年前、芭蕉と曾良の旅は、西行をはじめとする古の歌人の足跡を訪ねる歌枕探訪と、悲運の将・源義経を追慕する旅であったと言われております。

江戸を出発して東北や北陸の名所旧跡を巡り、岐阜の大垣までの百五十日間、六百里（二千四百キロメートル）の長旅でした。旅先では詩情溢れる優れた俳句を詠んでおります。

大崎市に入ったのは、平泉からの帰路、岩出山に一泊し、小黒ヶ崎や美豆の小島を訪ね、尿前の関から出羽の国（最上）に越えており、現在その道々は、おく

のほそ道として、歴史探訪の道、ウォーキングコースとして親しまれております。

歴史にはいくつかの if（もしも）が付きものです。旅に出る前の旅程（名勝備忘録）には、松島から平泉へは吉岡から奥州街道に入り、歌枕「緒絶の橋」「姉齒の松」を訪れるために古川、金成の宿を経て一関に入る経路が計画されましたが、なぜ石巻に足を踏み入れたのか？（おくのほそ道本文には道を誤って：と）

古川緒絶橋は、芭蕉が訪れてみたかった「心の訪問地」だったかも！また鳴子温泉に浸っていたら！鳴子峠を訪ねたら！歴史に残る一句を詠んでいたかも！

八月十日は「道の日」、現代の芭蕉人になって大崎を訪ね歩いてみませんか！新たな歴史的発見や出会いがあるかもしれません！

大崎市長 伊藤康志